



教皇様の聲

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticanoの転載許可済
©1986
発行所
財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
☎(0797)31-3452

神はすべてを 〈創造シリーズ Ⅱ〉

よきものとして造られた

1 神は、「ご自分以外の全て、つまり世界と人間を、無からお造りになった。このことはすでに聖書の第一頁に記されてあります。(ただし、創造についての詳しい説はのちに啓示が発展した段階で現われる。)

創世の書の始めを読むと、創造に関する二つの記述に気づきます。聖書学者の判断に従うならば、第二の記述の方が古いようです。表象的具体的な性格をもつこの記述のなかで神は「ヤーウエ」と称されています。そこでこの第二の記述を「ヤーウエ伝承」と称します。

第二よりもあとに書かれた第一の記述は、第二の記述よりも一層系統的、神学的であります。第一の記述では神のことを「エロヒム」と称しており、そのなかで神の創造のみわぎは六日間の活動としてあらわれま

2 神学者たちはこのテキストが「司祭、礼拝のサークル」から生まれたと結論しました。創造主である神の例を示して、働く人々がその模範に従うよう勧める創世の書第一章の著者は、十戒の掟である七日目の安息日を守るべきことが確認されるようにと、手を回したわけですね。

創造に関する記述は典礼の内想されるべきでしょう。一日毎の神の御働き相互の間にある厳密な連続性と類比の言葉は、「神は天と地をつくられた」であります。すなわち、目に見えるもの全てをお造りになったということ。次いで、日毎のみわぎを記述するとき必ず、「神がおおせられた、あれ」という表現があらわれます。創造主の「フィアト」(在れ)という言葉の力を受けて徐々に、見える世界が生まれてくるのです。はじめ地は「ととのわず、むな

3 このテキストは宗教的にも神学的にもすばる重要であります。自然科学にとって意味ある要素をここに求めようとしても無駄なこと。この記述のなかに、各々の種の起源や進化(発展)に関する決定的な規則や積極的に研究に貢献するような事例を求めても無駄でしょう。

自然進化説は神が原因であることを除外しないかぎり、原則としては、創世の書による目に見える世界の創造に関する真理と対立するものではありません。

4 全体としてみれば、靈感をうけた聖書記者は、当時の天地発生についての考え方を採り入れて

5 創世の書および聖書の他の箇所、創造のわざと創造主である神について述べるところを見ると、幾つかの点が明らかになります。

(1)神はご自分お一人で世界をおつくりになった。創造の力は他者に与えることはできない。(Incommunicabilis)

(2)外的な強制からでも内的な必然性(義務)からでもなく、神は自由で世界をつくられた。神は創

6 二千年足らずのあいだ教会は、旧約の神の民イスラエルの信仰を受けついで、目に見える世界と見えない世界は神の創造によるという真理を一貫して告白しつづけてきました。教会はこの真理を説明し、また徹底的に検討するにあたり、「存在の哲学」を用いています。また教会は、思想上ときどきあらわれる歪曲(こじつけ)からも、この真理を守ってきました。第一バティカン公會議において教会の教導職は、当時の汎神論や唯物論の傾向に対抗し、特に荘厳に力を入れて、世界は神の創造の御働きによると確認したのであります。汎神論や唯物論的な傾向は、今世紀においても精密科学と無神論的なイデオロギーのなかに生きています。第一バティカン公會議の「デイ・フィリウス」を読んでみましょう。「この唯一のまことの神は、自分の幸福を増し、または獲得するためにではなく、被造物に与える善によって、自分の完全さを表わすために、自分の善と『全能の力』によって、自由な計画をもって『時間の始

記述しています。ただしその記述のなかで、全ては唯一の神のわざからなつたことを全く独創的に記しており、これが啓示された真理であるわけですね。ところで聖書のテキストは、一方では目に見える世界が徹底的に神に依存すること、そして神が個々の被造物すべてに対して力をもつことを主張するとともに、他方、神のみ前で全ての被造物が有する価値をも浮き彫りにして見せてくれます。

事実、一日の創造のあとに「神はよしと思われた」と書いてあり、六日目の創造のあとには「神は、ご自分のつくりだされたすべてのものをながめわたされた。これをよしとして満足された」(創世の書1・31)と書かれています。宇宙の中心である人間を造られたあとのことでした。

創造に関する聖書の記述は存在論的である、つまり、有について述べると共に、価値論的であります。造られたものの値うちについても述べているからです。神は無限の善性の現われとして、全てをよきものとして造られた。これが聖書による宇宙発生、とりわけ創世の書の序論から引き出せる根本的な教えであります。

(3)世界は神により、時間のうちにつくられた。従って、世界は永遠ではなく、時のうちに始まりを有する。

(4)神に造られた世界は、創造主によってたえず存在を支えられている。(保存) この保存は創造の継続であると言える。(Conservatio est continua creatio)

造することもしないこともできず、今のような世界をつくることも、それとは異なる世界をつくることもおできになった。

世界は神により、時間のうちにつくられた。従って、世界は永遠ではなく、時のうちに始まりを有する。

めから靈的建造物と物質的建造物、すなわち天上と地上との被造界をひとしく無から創造し、次にこの兩者を合わせた靈魂と肉身とから成立している人間を創造した(『第四ラテラ公會議』)、『文書資料集』3002) 教義を述べるテキストのあとにくる「カノン」のなかで、第一パティカン公會議は次の真理を確認しています。

- (1)「見えるものと見えないもの」の創造者であり主である真の唯一の神。(『文書資料集』3021) 主張(物質主義)して恥じない者は排斥される。(同3022)
- (2)物質の他には何も存在しないことと主張(物質主義)して恥じない者は排斥される。(同3022)
- (3)神とすべての事物とは、その本体または本質において同一であるという説(汎神論)は排斥される。(同3023)
- (4)物質的ならびに靈的な有限の事物が神の実体から流出したものであるとか、神の実体の表現または進化によってすべてのものができあがるとか言う者は排斥される。(同3024)
- (5)神は普遍的すなわち無限のものであり、これを限定することによって類、種、そして個々の區別が生ずると言う者は排斥される。(同右)
- (6)世界とそこにあるすべての物は、靈的なものも物質的なものもすべて、その実体は神によつて無から造られたものであることを否定する者は排斥される。(同3025)

8 創造のわざの目的については別に扱う必要があるでしょう。

実はこちらの方に、啓示においても教会の教導職と神学においても、多くのスペースが費やされています。話の結びとして、今日は知恵の書の美しい言葉を読んでおきましょう。愛の心から宇宙をつくり、それを保ちてくたさっている神をたたえるこの言葉を。

「あなたは存在するものをすべて愛される、つくられた物を一つとしてきられない。あなたが何か憎んでおられたら、それはつづられなかつたろう。あなたの望まれぬ物が存在するはずはなく、呼び出されぬ物も存在しない。あなたはすべての物を惜しまれる、すべては、あなたの物のだから、生命を愛される主よ。」(知恵の書11・24、26) (一九八六・一・二十九)

信徒の役割



「あなたが私をこの世に送られたように、私も彼らを世に送ります。」(ヨハネ17・18) 第二パティカン公會議の教令は、教会の師であり主である御方のこの言葉を、司祭の召しだしと使命に関する永遠の教えであるだけでなく、キリストの弟子としての信徒の召しだしと使命についての福音の教えであると考えました。(…)

世界を内から変える

洗礼と堅信の秘跡を受けた信徒はみな、福音の精神に従って世界を内

から変える使命を自らの使命として受けます。

こうしてキリスト者の家庭のになう役割が明らかになります。(…)

「人は神が合わせられたものを離してはならぬ。」(マテオ19・6) イエズスのこの言葉は自らをキリスト者と称する人全員にとって法としての力をもつものです。ほんとうのキリスト者であるならば、離婚、秘跡でない結婚、避妊、産児制限、罪なき子を抹殺する墮胎を、断固として拒げなければなりません。キリスト者は全霊をかたむけて、

婚姻における不解消の愛、人間生命の尊重、とくにいまだ生まれ来ぬ生命、家庭の安定を、弁護・保護しなければならぬのです。家庭が安定していれば、相互に補い合う父として母としての愛に包まれたよい教育が可能になります。

右に述べたような要求に忠実を保持しようと思えば、家庭における聖母信心、イエズスの聖心への家庭の奉獻と信心など、伝統的な家庭の祈りがどうしても必要となります。キリストへの忠実のしるしである聖心の像をお持ちの方々に祝福を送ります。夫婦の方々としてお子さんたちに祝福を送ります。聖体祭儀の間に、キリストへの愛を基礎とするみなさん方の忠実な相互愛をあらたにしてください。(一九八五・二・三)

信仰の遺産と教理省

「ペトロと共に、ペトロのもとで」司教全員の負う特別な責任について考えてみましょう。完全に守り、世代から世代へと忠実に教え伝えて行くようキリストが教会にお任せになった「信仰の遺産」に関わる責任についてです。御父のもとにお戻りになるときキリストが弟子たちに仰せられたあの荘嚴な言葉を思いださぬわけにはゆきません。キリストのおこ

とばは明確な責任を課するものです。「私には天と地の一切の權威が与えられていて、行け、諸國の民に教え、

(…)私が命じたすべてを守るように教えよ。(マテオ28・18以下)

* * *

すべてを、ほんのわずかでも、「遺産」の一部を変更したり、捨てたり、無視したりすることは許されません。この点をしっかり自覚していた聖パウロはティモテオに向かつて絶対的な命を下しています。「あなたに委ねられたものを守れ。ティモテオ(①6・20) さらに続けて、「みことばを宣言せよ。よい折があろうとなかろうと繰り返し論じ、反駁し、

(…)私が命じたすべてを守るように教えよ。(マテオ28・18以下)

* * *

今も同じ誘惑にさらされています。今日の神の民の牧者や導き手には、正真正銘ほんもの福音の教えを、これを汚染したりゆがめたりするものから守るという明確な義務があります。『教会憲章』(13) が思い起こさせたように、私たちの世代がもっているよきものを識別し受け入れなければなりません。必要に応じてそれらを清め、強め、高めるために。

しかしまた、誤りや罪であるものは勇敢に拒絶すべきです。真理と人間の道徳をおびやかす要素を含んでいるものすべて、人をあざむくために操作し、横暴にも、ペルソナの尊厳と、個人や國の護ることのできない権利を攻撃するもの全てを、拒否しなければならぬのです。

信仰とカトリックの教えの全体を完全に守るため、教会は見張りつづける義務を負っています。それらを汚そうとする試みに気をつけよと叫ばなければなりません。これこそ、決して放棄することのできない仕事ですから。

真理を守るのは教会の義務

聖座は、「信仰の遺産」を促進しか

説教・講話・書簡等の抄訳

つ守る義務を、とくに教理省の助けを得て果たしています。判断を下すべく教理省に提起された人物や著作を吟味する方法手続きについては、すでにご存じのように第二パティカン公会議の勧めに従って少々変更が加えられました。真理を守るとは、教会の聖なる義務であると同時に避けることのできない義務であります。それがいかなる形でも人々の尊厳や権利を無視するようなことがあってはなりません。

偏見のない客観的な見方をするならば、最近の例をみても、教理省の介入がすべて、当事者を尊重するという厳密な基準をしっかりと守っていることがおわかりになるでしょう。個人的にであれ、公にであれ、同省の仕事について話すときには同じような敬いの心を示していただきたい。これは神の民全員についても言えることです。教理省の目的は、あらゆる危険から、キリスト者の有する最大の善、つまり信仰の真正さと完全無欠さを守り通すことなのであります。

* — * — *

神の民を構成する人々の間で信実誠実に率直な対話がなされるのはたしかに大切です。しかし対話とはあくまで真であるもの、義にかなうものを求めるのが目的であって、ほんとうの対話精神を無視した言葉や態度にふけるためではありません。誰もが真理に対してもつべき義務を自覚していなければならぬのです。神が啓示してくださる、教会がその保護者となっている真理に対する義務を。(八四・十二・二十一)

神学者の仕事と教会の活動とを切り離して考えることはできません。神学者は神のみ民のために、聖書を説明し、聖伝を解釈しますが、あくまでも教会の教導職と一致してのことです。それゆえ神学者の仕事は教導職にかかわっています。とは言っても、両者が全く同じものというわけではありません。この点については第二パティカン公会議の言葉に耳を傾けるのがよいでしょう。公会議では、神の啓示について教義憲章の中で次のように述べています。「聖伝と聖書と教会の教導職とは、神のきわめて賢明な配慮によって、一つは他のものから離れては成立たず、全部がいっしょに、そしておのおのが固有のしかたで、聖霊の働きの下に、救霊に有効に寄与するように、互いに関連し、結合されていることは明らかである。」(『神の啓示に関する教義憲章』10番) 公会議はこのように神学の方法の基本的なルールを述べています。つまり教会が受け継いできたものすべてを基礎とし、絶えず受け継がれてきた信仰という宝物を土台として出発するはずであると。また、そこに教会の教導職が代々決定してきたことがらも入って

神学者は 神の真理に仕えるしもべ

八月号より続く

神学者と教導職

聖霊の恩寵に照らされてそれぞれ役割ができ上がってきました。教皇および教皇に一致した司教には誰にもまして信仰を宣言する義務があり、またその表現のしかたが正しいものであるかどうかを確認する義務があります。また司牧者の任務は、神学者たちが使命を果たすのを手伝うと同時にそれを監督することです。お互いが親しく、胸襟を開き、誠をもって話し合うなら、必ず双方の問題点や必要性をより一層理解することができると。私が本日ここに来たのも、皆さんと打ちとけて一致したいからに外なりません。

神学者の仕事がより難しくなり危険に満ちているなら、なおさらお互いの結束は欠かせません。というのも、神学者はときとして、論争の余地のある命題をも扱わなければならないからです。これが神学者の仕事ですが、このときも自分勝手に活動したり、一部の人々にあやつられて動いたりするわけではありません。批判のための批判がその役目ではないのですから。むしろ、一致を進める職務をもつ人に、忠実に協力していくべきです。また、自己の知識のみで目の前にある問題のすべてを解決できるわけではないということもわきまえておかなければなりません。

このようなわけで、厳密な科学的ルールにそって仕事を進めていくためには、神の養子としての謙遜な態度が必要です。仕事の前に心しておいてください。自由な研究とはどんな制約も受けないということではありません。その学問の目的に向かうべきであって、神の民に役立つものでなければ意味をなさないのですから。信仰を教え、説明する責任を私たちにお与えになったのは、私たちより偉大な御方、すなわちキリストご自身であります。それゆえ「弱い人々」と「貧しい人々」に対しては特に気を配らなければなりません。従って、研究の成果を最大限に發揮させたければ、まず一つの学派や国の中で、学者の方々がその研究についていろいろと調べ、そのあとで初めて一般の人々に発表するに限りません。そうでないと、信仰の問題に精通していない信者を混乱させること



になりかねないからです。正式には未だ認められていない命題、あるいはまだ研究が不十分できちんと整理されていない問題のために信者を惑わせてはなりません。

霊的態度

皆さま方のお仕事が決めて容易でないことは十分承知しています。皆さまが託された仕事をより精力的に実行するためには、より一層無私の心をもつべきでしょう。そのために、皆さま方が研究し教えているのは人間を救うための神の啓示なのだということを銘記しておいてください。仕事を進めていくには、まずその活動の分野でキリストの弟子とならねばなりません。我らの主、救い主の弟子となることです。キリストの秘義について祈り、黙想するとき、行く手に決定的な光を受けることでしょう。真の英知を見出すでしょう。信仰によってキリストの御手に身をゆだねるなら、唯一の主キリストに仕えること以上に深い喜びのものはないと悟ります。愛なる聖霊のお導きに委ねるなら、真の自由という幸福を味わえるのです。(コリント②、17参照)

皆さま方は霊的たまものを豊かに恵まれていらっしゃいます。この恩寵のおかげで、この世でキリストを証明する仕事につくことになりました。そして世間では、今も信仰の光を捜し求めている人が大勢います。また、兄弟姉妹のなかには、殉教によって決定的な証人となるように召された人たちが少なくありません。

不変の教え

聖ヨハネの「神は愛である」(ヨハネ④・8・16)という簡単な言葉こそ人間の神秘をとく鍵です。神は愛であるゆえ、人間もまた愛でなければなりません。人間は愛を必要とする、人は自分が愛されていることを感じる必要がある、人は自分自身であるために愛さねばならず、自らを与えねばならない。またその愛を愛さなければなりません。三位一体の神は愛の神です。この愛は、ペルソナとしての愛すなわち聖霊をお愛しになる、御父と御子相互の贈り物であります。この神の神秘が、自然の結婚の完成と言えるキリスト者の結婚とは何か、また結婚が有する深い意味に、光をあててくれます。自然の結婚には始めから神の刻印が押されていたのです。「神はご自分にかたどって、人間をつくりだされた。(…)男と女につくりだされた。(…)神は祝福して仰せられた、『生めよ、ふえよ、…。』」(創造の書1・27〜28参照)

信者同志の結婚は秘跡です。結婚が秘跡となるのは洗礼のおかげ。洗礼は、私たちが神の生命に与らせる、神の本性に与る(ペトロ②①・4)ものとしてくれます。人となつたみことば、神の御子に結びつき、その御子において一つの体、つまり教会を形つくるのです。(コリント①⑩・17参照)

このように考えれば、次の点が明らかになってきます。なぜ教会に對

夫婦愛と教会の使命

するキリストの愛が男と女を結びつける不解消の愛にたとえられるのか。なぜ、キリスト者の家庭、家庭教会(『教会憲章』11、b)へと発展する結婚、大いなる秘跡と称されるキリスト者同志の結婚が、教会にこそされるキリストの愛を示していると言えるのか。かくして、キリストの愛と教会の愛が、目に見える天上の宝の所有者としての教会共同体を支えているということにも気づきます。(『教会憲章』8、a)

以上のような理由から、キリスト者の結婚が一種の神への奉獻を生み出す秘跡であると云われるのです。(『現代世界憲章』48、b)

結婚は愛の任務であります。結婚生活の証しによって、神の愛とはどういうものなのか、また、キリスト教的な意味での夫婦の相互護与の深い意味が明らかにされるのです。

結婚はまた、父性と母性の保証です。その源は神のペルソナの相互愛であつて、これこそ最も完全かつ他の追随をゆるさぬ象徴であります。

基本となるかけがえない細胞、すなわちキリスト者の家庭内で、キリスト者である夫婦が互いの愛と、二人の間で、子供と共に子供のために生きる愛を証明するとき、二人は教会の使命に与ることになります。(一九八六・一・三十)

神は苦しむ人々をお愛しになる

苦しんでいる人々へのキリストの大きな愛に信頼してください。「私は肉体をもって生きていますが、私は愛し、私のためにご自身をわたされた神の子への信仰の中に生きています。』(ガラツィア②・20) 神は「私をお愛された」。さらに神は慈しみ深い御方であるから、とりわけ人間の本性が限界と弱さ、苦しみに出会うところで、私たちのもとと親しい交わりを確立しようと望まれました。神はこの親しい交わりを十字架につけ

苦しんでいる人々へ使つて実現なされ、貧しい人、病に伏す人をお愛しになるのです。生産的な生き方、世を変えうる人生、能率的な生き方のみが生きるに値する人生であると考えてはいないでしょうか。神は御子を通して苦しむ人々を愛せよと私にお教えになる。こうして神は、人間の精神的な価値、すなわち友情や愛情、愛にもとづく協力などが、苦しみにおいてこそより一層理解され、表現され易いことを教えてください。

そこで私は苦しみの時を、神秘にみちた召しだし(神の呼びかけ)の時だと考えます。「苦しみは人間の精神的な偉大さ、人間の霊的円熟をお

信仰は日々の生活にあらわすもの

洗礼によって教会の成員となつた信者は、堅信の秘跡によって「いっそう完全に教会に結びつけられ、聖霊の特別な力で強められて、キリストの真の証人として、ことばと行ないをもつて信仰を広めかつ擁護するよう、一層強く義務づけられています。』(『教会憲章』11)

前の世代から伝えられてきた信心を大いに活用し、それらを「純粋で汚れない宗教」(ヤコブ①・27)に変えてください。その宗教は要理教育と秘跡を中心とした生活から栄養を摂取すべきです、またそのおかげで悪に染まるのをさけることもできます。信仰を一人ひとりの心の問題

と考えるのは甚しい誤解です。たしかに信仰は心(良心)に住まうと言えますが、それゆえにこそ、行ないにおいても忠実を保つと要求されるわけです。信仰と生活との間には切り離すことのできない密接なつながりがあるのです。

歴史の黎明期に神が十戒をお与えになつたのは気まぐれではありませんでした。キリストがより完全にしてくださった十戒は、キリスト者の個人的そして社会的行ないにとつて、いまま変わらぬ基本であります。

今日、物質的な面にのみ幸せを求める傾向と共に広がっているのが、宗教的無関心。さらに、宗教的な無

らわせという呼びかけである。(『救いをもたらす苦しみ』22参照) 苦しみはまた、十字架につけられた御方に近づき、その方を理解し、十字架の神秘にあずかれとさす摂理の招きです。数々の十字架をになうあなたは神のおそばに居ることを考え、それらの十字架をキリストと共に御父にささげよう努力してください。そうすれば、あなたの犠牲は人類と教会のために多くの恩寵をもたらすという、素晴らしい貢献をすることになるのです。キリストの受難を黙想すれば、今の苦しみを聖化の力をもつささげものと変えるための力を保つことができるでしょう。

(三・十六 聖カール病院にて)

関心が広まると共に、道徳面での水準低下と空虚感があらわれてくる。若い人々とはくにこのような傾向に踊らされています。何事にも熱意を注ぐことができず、一時的ではかない幸せを求めているのです。

たえず信仰の原理に戻らなければなりません。そうすれば、信仰の原理が人間性の原理と相反するところがないばかりか、互いに完全に一致することに気づくはずで、人間には無限の淵があり、それを埋めることができるのは、ただ無限かつ不変の神のみなのです。(一九八六・五・九)

■当協会は、エスクリバー神父のニユース・レター配布を委託しております。ご希望の方は、係までお申し込みください。

〒659 芦屋市般戸町十二の六
財 精進教育促進協会
ニユース・レター係

『教皇様の声』ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部七十円送料四十円
■一年予約八〇〇円送料五〇〇円 ■二十部以上の一括購入なら送料不要
替 振 郵 便 神 戸 3-72393